

# 個別施設計画

(横断歩道橋)

令和6年3月

瑞浪市 建設部 土木課

## 目 次

1. 老朽化対策における基本方針	3
2. 新技術の活用方針	4
3. 費用の縮減に関する具体的な方針	4
4. 個別施設の状態等及び対策	5

## 1. 老朽化対策における基本方針

瑞浪市が管理する横断歩道橋について、損傷の進行した後に補修を繰り返し実施した場合、修繕・架替えに要するコストが増大となることが懸念されます。

したがって、より計画的な維持管理を行い、限られた予算の中で効率的に維持管理していく取り組みが不可欠となります。コスト削減のためには、従来の「対処療法型」の維持管理から損傷が大きくなる前に計画的に修繕する「予防保全型」へ転換を図り、延命させる必要があります。

瑞浪市では、将来的な財政負担の低減及び道路交通の安全性を確保するため、横断歩道橋の個別施設計画を策定しました。

### 1) 対象施設

行動計画において、個別施設計画を策定することとした施設対象を以下とします。

#### 陶町歩道橋

路線名：その他市道 水上・猿爪線

建設年月日：1967年12月

橋長：17.1m 幅員：2.0m 最終点検年度：2017年度

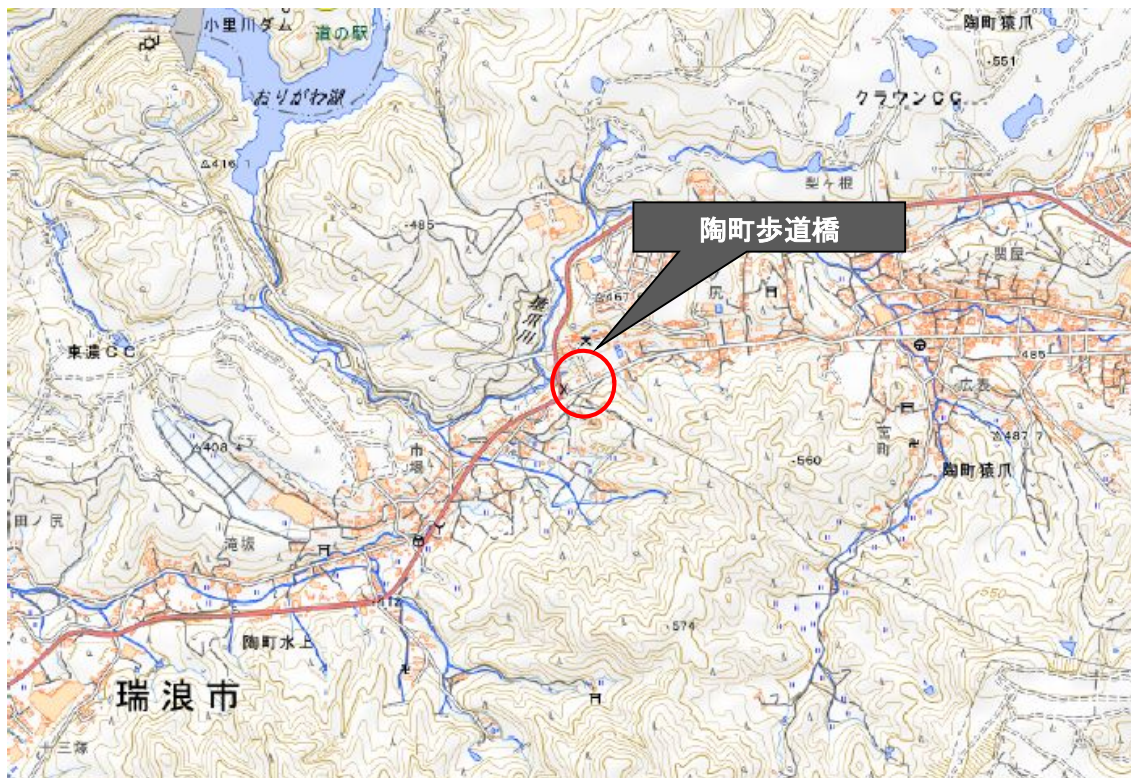


図 陶町歩道橋位置図（出典：地理院地図）

## 2) 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

### (1) 健全度の把握の基本的な方針

定期点検や日常的な維持管理によって得られた結果に基づき、横断歩道橋の損傷を早期に発見するとともに健全度を把握します。

### (2) メンテナンスサイクルの確実な実行

歩道橋の健全度を把握するために、日常的な維持管理が必要となります。基本的な維持管理は、メンテナンスサイクルを継続的かつ確実に実行します。

## 2. 新技術の活用方針

今後の維持管理において、インフラの効率的な維持管理を可能とする新技術の活用を検討します。活用にあたっては、新技術情報提供システム（NETIS）や点検支援技術性能カタログ等を参考に新技術等の活用を検討し、維持管理の効率化及びコスト縮減を目指します。

## 3. 費用の縮減に関する具体的な方針

瑞浪市が管理する横断歩道橋の中で、計画的かつ予防的な修繕対策の実施へと転換を図り、横断歩道橋を長寿命化することを目標年、修繕及び架替えに要するコストを縮減します。

また、横断歩道橋の利用状況や周辺道路の整備状況等を鑑み、集約化又は撤去等を検討することにより、横断歩道橋の集中的な対策の実行を目指します。

## 4. 個別施設の状態等及び対策

瑞浪市が管理する横断歩道橋について、概ねの次回点検時期及び修繕内容・時期を次頁に示します。

※対策を実施する時期は点検状況や財政状況により変更することがあります。

施設名	路線名	橋長 (m)	幅員 (m)	架設 年度	上部工形式	点検結果		主な補修内容	補修費用 (千円)	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
						最新 点検 年次	判定 区分			2019	2020	2021	2022	2024	2025	2026	2027	2028	2029
						陶町歩道橋	市道水上・猿爪線			17.1	2.0	1967	鋼桁橋	R4	II	根巻きコンクリート嵩上げ工、ボルト復旧工	110		